

# 高尾山報

令和5年6月号



宗祖弘法大師御誕生一千二百五十年記念慶賛法要厳修

五月二十一日(日) 於・大師堂

去る五月五日に石川県能登地方を震源とする  
地震により、被災された皆さまに謹んでお見舞い  
を申し上げます。

そして、一刻でも早い復興と、皆様に平安なる  
日々が訪れますようご祈念申し上げます。

令和五年能登地方地震被災者の皆様に  
謹んで御見舞い申し上げます

うした水田を潤すような  
治水工事にまつわる話も  
語り継がれています。  
今は昔、讃岐の国那珂  
郡（現在の香川県仲多度郡まんのう町）に満農  
の池という大きな池があ  
りました。高野の大師（弘法大師）がこの國の人を  
哀れんで、多くの人を集め  
て築かれました。  
池の周りは遙かに遠く  
堤も高いので、とても池  
とは思われず、まるで海  
のように見えました。向  
こう岸が幽かに見えるほ  
どなので、その広さが思

いやられます。この池は、作られてから長い間崩れることはありませんでした。そのおかげで、その國の者が作をするときには、早魃なく喜び合つていました。

池には上流から幾筋もの川が注ぎ込んでいました。いつも水がたっぷりあつて干上がるることはあります。池には大小の魚がたくさん棲み、これが國の者がとつていましが、多くの魚が生息し

て満ちていたので尽きることはありませんでした。  
（今昔物語集）

派遣を強く望みました  
〔日本紀略〕。その思い  
に応えるように、空海は  
民衆のために一心に尽力  
したのです。

（写真左）が高尾山を西村長官は境内拝観のにて佐藤貫首と親しくに下山されました。

四月七日、宮内庁長官（写真左）が高尾山を

生まれる恵み）を心がけながら、お大師さまの一  
二五〇年の誕生日をお祝いしたいと思います。

（栃木北部教区普濟寺）

本の「弘法大師・伝教大師・慈覚大師・智証大師」の四人の大師を始め、菩薩号と和尚号を頂戴した方々)と見えるようになります。弘法大師空海、伝教大師とともに、「四大師」のお一人として数えられます。ユネスコ「世界の記憶」には、京都の東寺(教王護国寺)に所蔵される「東寺百合文書」も既に登録されています(平成二十七年(二〇一五)。密教に関する貴重な史料群ですが、未永く未来へと受け継がれていくことを切に念じます。

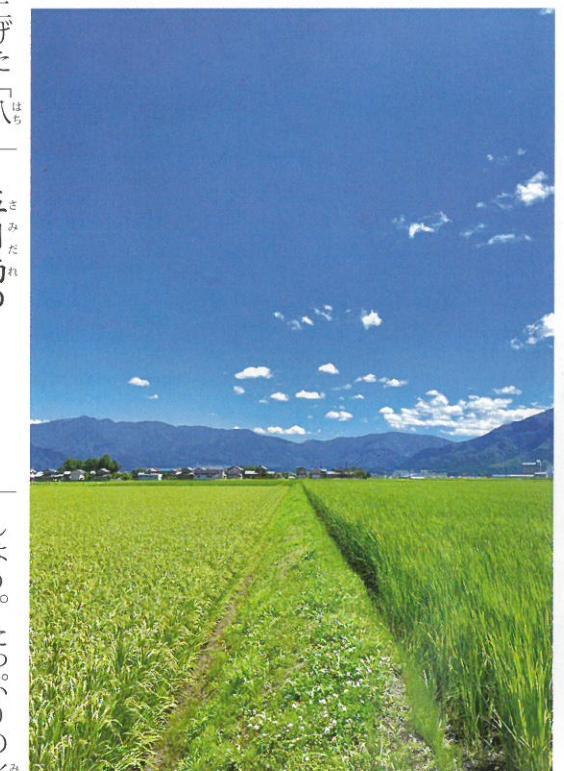
ら生まれた  
暦の中に「入  
梅」があるそ  
うことをご存  
知でしょ  
か。雑節には  
「入梅」の他  
にも「節分」  
や春秋の「彼  
岸」、「先月取  
り上げた「八  
十八夜」や「半夏生」な  
どが含まれてい  
ます。これらは季  
節の節目として、  
変化の目安となる日でも  
あります。



# 西村泰彦宮内庁長官来山

四月七日(金)

木々芽ゑく四月七日 宮内庁長官  
の西村泰彦様（写真左）が高尾山を  
訪れました。西村長官は境内拝観の  
後、当山書院にて佐藤貫首と親しく  
歓談後、無事に下山されました。



### 初夏に青々と広がる田んぼ

# 弘法大師御誕生壱千二百五十年記念慶賛法要厳修

五月二十一日(日)

本年は真言宗を開かれた弘法大師御誕生壱千二百五十年に正当します。この記念の年を迎えるにあたり、高尾山では今も尚、世の平穏と人々の幸福を願い続けておられる弘法大師のみ教えに思いを馳せ、五月二十一日に「弘法大師御誕生壱千二百五十年記念慶賛法要」を佐藤貫首導師のもと山内僧侶出仕して厳修致しました。

法要が行われた大師堂は、永年の風雪に耐え、今も往時の姿を残す建物の一つで、十七世紀後半から十八世紀初めに建立されたと推定され、東京都指定有形文化財に指定されています。

当日は大勢の御信徒の方々が参列され、法要後には特別開帳された大師堂内陣を参拝し、特別御手元が授与されてお大師様と御縁を深められました。



大師堂内における慶賛法要



参列の御信徒に挨拶する佐藤貫首



特別御朱印紙



特別御朱印帳(表裏)



特別御朱印帳(裏)

授与期間 六月十五日～年内予定  
授与額 特別御朱印紙：一千二百円  
特別御朱印帳：三千五百円

本年はお大師さまが御誕生されてから壱千二百五十年を迎えます。これを記念してお大師様と私たちを結ぶ御縁の証として、「弘法大師御誕生記念御朱印紙」と「弘法大師御誕生記念御朱印帳」をお大師様の誕生日と伝わる六月十五日より授与致します。

この御朱印紙と御朱印帳は、お大師様の修行巡礼のお姿を高尾山を訪れた光景を想像して作成したものです。この勝縁の年に是非御参詣下さいますよう、お勧め申し上げます。

## 弘法大師御誕生 壱千二百五十年記念大法

四月二十七日(木) 於・総本山善通寺

寺市・香川県善通寺の真言宗善通寺派総本山善通寺の御影堂において、宗祖弘法大師御誕生千二百五十年記念大法会が厳修されました。

善通寺はお大師様御誕生の地であり、本年は真言宗各派により様々な法要が行われます。

法要では総本山智積院化主第七十二世大僧正布施浄慧猊下御導師のもと、大本山首と共に、当山貫首も随喜致しました。



善通寺御影堂における大法会

## 駒ヶ根分靈院例祭

五月三日(水)



## 宗祖弘法大師御誕生壱千二百五十年 記念慶賛法要(大曼荼羅供)

五月十八日(木) 於・総本山智積院



五月十八日、真言宗智積院化主猊下と三山の貫首、諸大徳の記念撮影

山派総本山智積院の金堂において、宗祖弘法大師御誕生千二百五十年を記念する慶賛法要の「大曼荼羅供」が厳修されました。

総本山智積院化主第七十二世大僧正布施浄慧猊下御導師のもと、大本山成田山新勝寺岸田照泰貫首、大本山川崎大師平間寺藤田隆乗貫首と共に、当山貫首も随喜致しました。

## 石倉分靈院例祭

四月二十九日(土)



十七世秀興 5 權僧正拌任

明治大學博物館

42

# 高尾山年代記

## 重倫快癒

秀興の留守中、高尾  
山に詰れる所等は懸居甚

に係る祈禱依頼が届き、國許に在つてもなお關係は継続し、遠く和歌山の地にまでお札守が届けられたことになる。

薬王院文書に残る紀伊徳川家関係史料約二五〇点の内、大部分を占める八代重倫期の書状類は、同時代の文書として史実をそのまま反映した一次資料<sup>註1</sup>である。大名家と祈祷寺院との間で実際にどのようなやりとりがなされていたのか、逐一知ることのできる貴重な史料群と言える。今しばらく、そこから見えてくる動向をたどつてみよう。

諸寺社に対する重倫病氣平癒の祈祷依頼に係る祈禱料・供物料について言及している。後に作成された紀州家との関係を記した由緒書によると、この上京の理由として、「權僧正宣下上京つかまつりそうろう」とある。

新義真言宗の僧侶の官位(現在は僧階)は、門跡寺院である御室<sup>おむろ</sup>和<sup>にんな</sup>寺あるいは嵯峨<sup>さが</sup>大<sup>だい</sup>覺<sup>かく</sup>寺が宣旨<sup>せうし</sup>をもつて補任<sup>ほにん</sup>していた。江戸中後期における新義真言宗の僧官は、最上位に僧正があり、次いで権僧正、その下に四等官として法印、権大僧都、権小僧都、権律師<sup>りきし</sup>という順に位階があつた。江戸末期の規定では権律師に任せられるためには二〇年以上の修行が必要とさ

の権僧正に昇進している。江戸前中期においては、智積院・長谷寺小池坊が新義派のトップである能化在任中に権僧正から僧正に昇進することになつてゐるので、権僧正の位がどのような認識であつたか想像に難くない。秀興が権僧正に補任されたのは、明和五年（一七六八）に大覺寺の院室である方廣院の院主を兼帶したことが理由と考えられる。門跡寺院の院室を兼帶する僧は功劳・年功により権僧正に昇進する途があつた。

分もそれに従つて帰国する旨の音信があつた。『南紀徳川史』によると、重倫は九月一九日に江戸を出立し、十月二三日に和歌山へ帰着している。

それからひと月に満たない頃になるが、十一月一八日付で重倫の病気が治癒したという報せが届く。江戸出立以前からやや症状が改善していたとは言え、二年以上にわたる長患いを考えると、何とも唐突な印象を受けられる。重倫の江戸滞在中、その近郊にあつて祈祷を続けていた高尾山であるが、病氣平癒の心願も成り就し、その関係もひとまずの区切りかと思われたが、重倫の信頼は厚かつたようで、年明けの翌安永三年一月には息女出生

主就任後徳川治定と改める)が九代当主に就任した。病気を理由に満年齢で二九歳になろうかと。いう若さでの隠退であつた。前々年秋に帰国後、いつたんは症状が治まつたはずだが、病気が再発したのだろうか? 隠居からはしばらく間が開くが、高尾山に届いた閏十二月付け書状には「中納言殿何のお障りもあらせられず、安全の事そぞろう」と記されている。



安永2年(1773)、秀興は上京し権僧正に補任された。

はこれ無く」という様子  
ながら上野寛永寺への参  
詣を取り止めた。八千枚  
護摩供十座が執行されて  
いる最中の翌九年三月に  
も病気を理由に江戸城  
登城を取り止めている。  
それが、和歌山に帰国す

るや、早々に調子が戻つたことを考えると、重倫の病気は多分に江戸勤めによるストレスが影響を及ぼしていたとは言えないとどうか。帰国の翌安永三年正月以降の祈祷料に係る七月付の書面

に「所勞快然」の文字はない、その間、祈祷は病氣平癒の名目は外れ、重倫は健康体を保持していくことが考えられる。

以前にも言及したように、当該期は民間の経済が伸長する一方、領主層の困窮が深まる時期であり、藩政のかじ取りには苦慮したことであろう。また、何かと儀式張つた江戸勤めが性に合わなかつたのかもしれない。重倫にとって藩主の座は居心地のよいものではなかったようだ。隠居の後は健康体を保つて半世紀余りを生き、満八三歳の天寿を全うするのである。

五ヶ年間お断りするとの書面がもたらされている。同じ月の五日付には七月以来の祈祷について、わざわざ「前中納言殿（重倫）満足存ぜられ」と記されていて、重倫側の信心に翳りはない、この時はあくまで罹災による物入りが影響したようだが、結果的に年末の八千枚護摩供はこの安永五年が最後となつたことになる。

そして、安永九年七月になると「勝手不如意」を理由に正月のみ祈祷・御札を依頼するということになる。藩ではこの年三月に従来にも増して厳しく

この年の六月一七日が伝えられている。事後のものとなるが十月付の紀州家からの音信には「前薬王院御病身につき」とあるので、病を得て隠退の後の死であつた。隱居湛玄もまた、愛弟子の後を追うように十一月三日に示寂。この時、湛玄は数えで八七歳のはずなので在住三年の秀興もまた相応の年齢に達していたことと考えられる。

**註 1** これに対し二次資料とは、複製や再録されたものを指す。

**註 2** 天皇の命令を伝える文書のこと。

祈禱の縮小傾向

長らく蜜月の状態にあつた高尾山と紀州家だが、重倫隠退の翌年、安永五年の暮れに変化の兆しが現れる。

り、その影響が重倫のところにも及んだようだ。その一方、重倫は「いよいよ以て御快くこれあらせ」との様子で、もはや祈祷に対する切実さが薄れてきたのも止む無しといふ状況だつただろうか。明けて天明元年（一七八二）。秀興の命日として

山正栄編『智積院史』(一九三四)、高橋秀慧「近世新義真言宗の官位に関する基礎的研究——能化の官位を中心にして」(『現代密教』二〇、二〇〇九)おことわり史料の引用について、適宜読みやすく原文に手を加えています。

# 高尾山内八十八大师巡拝

宗祖弘法大師御誕生一千二百五十年記念

五月九日、高尾山内八十八大师巡りが行われ、総勢四十名の方々が参加され、高尾山中を巡拝し、お大師様（弘法大師）との御縁を結ばれました。巡拝は清滝周辺のお大師様から始まり先達の僧侶とともに、「懺愧懺悔六根清淨」と掛念仏をお唱えしながら、急峻な琵琶滙道を登る徒步練行を行い、山頂に到着後には、本年で御誕生一千二百五十年を迎えるお大師様を祀る大師堂にて、佐藤貫首導師のもと慶賛法要が行われました。精進料理の昼食後には、一号路各所のお大師様をお参りし、不動院にて巡拝の成満を御本尊様に奉告致しました。



大師堂における慶賛法要



大本坊前にて記念撮影



四月二十五日、佐藤貫首は総本山智積院において大勢の僧侶の出迎えを受けて午後一時に登壇しました。その後、会場である宸殿に移動され、午後二時より宗機顧問会に出席致しました。

当山貫首宗機顧問会出席  
四月二十五日(火)

下記のQRコードか  
URLから  
検索ができます。



TAKAOSEN\_YAKUOIN

[instagram.com/takaosan\\_yakuoin/](https://instagram.com/takaosan_yakuoin/)

## 薬王院インスタグラム紹介

薬王院では、インスタグラムを用いて各種行事や四季が移ろいゆく風景を、写真や動画で御信徒様にお届けしております。

これからも様々な写真や動画を沢山アップしていくので是非ともフォローをお願い致します。

## 深緑の高尾山を満喫 高尾山若葉まつり

四月十五日～五月二十一日

高尾山では四月と五月の春の木々の芽吹きをお伝えする高尾山若葉まつりを行っております。

本年は四月十五日から五月二十一日まで開催され、三年ぶりに山麓の特設ステージでの「八舞」や不動院での「野点」やどんどんむかし語り部の会による「昔話」など、さまざまなイベントが開催されました。

野点では不動院でお茶が振る舞われた

高尾山では四月と五月の春の木々の芽吹きをお伝えする高尾山若葉まつりを行っております。



## 高尾山天狗まつり

五月十八日(木)

奉納頂いた御袈裟を身に着けた  
佐藤貫首と外池講元

## 奉納御礼 遠山七条袈裟を御奉納頂く

五月十六日、三友建設高尾講の皆様が来山され、昨年登拝七十五回を迎えたことを記念して、佐藤貫首に遠山七条袈裟を御奉納頂きました。昭和五十九年に結成された三友建設高尾講は、八王子市内で三友建設株式会社を母体としており、薬王院の参与である、外池正明様が講元を務められ、年二回の団参を続けられます。

ここに謹んで御礼申し上げます。



八王子芸妓衆による  
華麗な祝いの舞



高尾山や天狗にまつわる  
昔話がお話しされた

# 觀音菩薩の宗教

⑥

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

## 如意輪觀音（その4）

は最初が身呪、次が隨心呪に相当する。

高尾山報 令和5年6月1日 第713号

前号で見たように、日本における如意輪菩薩信仰は奈良時代に始まり、それとしない如意輪陀羅尼が誦されたいたとされる。如意輪陀羅尼を説く漢訳經典は複数が伝存し、それらは義淨訳『觀世音菩薩祕密藏如意輪陀羅尼神呪經』、實叉難陀訳『觀世音菩薩如意心陀羅尼經』、菩提流志訳『佛說觀自在菩薩如意寶珠如意輪陀羅尼經』の順に増広されていったと推定されている。

（徳重弘志）『聖なる観自在の如意輪觀音の名称に関する新出資料』（高野山大学密教文化研究所紀要）第32号、二〇一九年、二二頁）。広く陀羅尼を研究した田久保周誉は、そぞらに見える如意輪觀音団団「唵鉢特摩震哆末尼啜囉虎吽（Om padma cintamani-jvala hūm）」を如意輪觀音の普遍的な真言とし、「唵、蓮華尊よ、如意寶珠の光明よ。吽」と和訳した（眞言陀羅尼の研究）鹿野苑、「一九六〇年、六五頁）。

また、その異流呪の伝承として田久保は不空訳『觀自在菩薩如意輪瑜伽』の「唵囉囉娜跋納銘（Om varada hūm）」を挙げ、「唵、願者蓮花尊よ。吽」と和訳している。如意輪陀羅尼は義淨訳では身呪と心呪と隨心呪が詠かれ、上記の陀羅尼は蓮華の上に、ル、ル、彼は住する。光焰よ。彼召のために、フーン、

パット、スヴァーアーハー（Om cakravarticintamani mahāpadme ru ru tiṣṭhate jvala ākarsaya hūm phat svāha）「以上が」根本の真言【である】

「オーン、蓮華〔の蓄の形状〕の如意宝珠の光焰よ。フーン（Om padmacintamani jvala hūm）「以上が」心呪【である】

「オーン、施与者よ、蓮華の上に〔彼は住する〕。フーン（Om varada hūm）「以上が」心呪【である】

「オーン、密な心呪【である】蓮華の上に〔彼は住する〕。フーン（Om varada hūm）「以上が」心呪【である】

「オーム、如意輪觀音の陀羅尼は成就法にも記述される。如意輪觀音は、觀自在菩薩摩訶薩と世尊ブツダとの語り合いにより展開する。經題と帰敬文に統いて対話が始まり、陀羅尼を誦した後、その威力が具体的に細かく語られる。以下、徳重訳に基づき、筆者の若干の解説を加える。なお、（）、（）は徳重訳に付されたものである。また必要に応じてルビを振った。

〔〕は軍荼利明王（左下）と金剛藏菩薩を眷族に從える。十二臂如意輪觀音を主尊とした三尊像。軍荼利明王（左下）と金剛藏菩薩を眷族に從える。SAT大正蔵图像DB『高野山真別所圓通寺本圖像抄』より(<https://dzkimgs.l.u-tokyo.ac.jp/SATi/images.php>)

高尾山報 令和5年6月1日 第713号

アーハ、フリーヒ、パツト、スヴァーアーハー（Om cintāmaṇicakraṇavarti mahāpadme āh hṛīh hūm phat svāhā）

唐の大訳家・玄奘は翻訳せず、原語のまま借用すべき語を五種挙げ、これを五種不翻とした（拙稿「觀音菩薩の宗教」<sup>33</sup>参照）。その一つが陀羅尼などの「秘密語」で、漢訳仏典のみならずチベット語訳やモンゴル語訳でも、陀羅尼やマントラなどの呪句は、それぞれの言語の訛りに変化しつつもサンスクリット語のまま唱えられてきた。その理由は教理上からも修法上からも種々に論ぜられていて、呪の意にふさわしく、論理的解釈をはばむ。そもそも陀羅尼は文法的にも破格なことが多く、陀羅尼も同様である。

アーハ、フリーヒ、パツト、スヴァーアーハー（Om cintāmaṇicakraṇavarti mahāpadme āh hṛīh hūm phat svāhā）

唐の大訳家・玄奘は翻訳せず、原語のまま借用すべき語を五種挙げ、これを五種不翻とした（拙稿「觀音菩薩の宗教」<sup>33</sup>参照）。その一つが陀羅尼などの「秘密語」で、漢訳仏典のみならずチベット語訳やモンゴル語訳でも、陀羅尼やマントラなどの呪句は、それぞれの言語の訛りに変化しつつもサンスクリット語のまま唱えられてきた。その理由は教理上からも修法上からも種々に論ぜられていて、呪の意にふさわしく、論理的解釈をはばむ。そもそも陀羅尼は文法的にも破格なことが多く、陀羅尼も同様である。

アーハ、フリーヒ、パツト、スヴァーアーハー（Om cintāmaṇicakraṇavarti mahāpadme āh hṛīh hūm phat svāhā）

唐の大訳家・玄奘は翻訳せず、原語のまま借用すべき語を五種挙げ、これを五種不翻とした（拙稿「觀音菩薩の宗教」<sup>33</sup>参照）。その一つが陀羅尼などの「秘密語」で、漢訳仏典のみならずチベット語訳やモンゴル語訳でも、陀羅尼やマントラなどの呪句は、それぞれの言語の訛りに変化しつつもサンスクリット語のまま唱えられてきた。その理由は教理上からも修法上からも種々に論ぜられていて、呪の意にふさわしく、論理的解釈をはばむ。そもそも陀羅尼は文法的にも破格なことが多く、陀羅尼も同様である。

アーハ、フリーヒ、パツト、スヴァーアーハー（Om cintāmaṇicakraṇavarti mahāpadme āh hṛīh hūm phat svāhā）

唐の大訳家・玄奘は翻訳せず、原語のまま借用すべき語を五種挙げ、これを五種不翻とした（拙稿「觀音菩薩の宗教」<sup>33</sup>参照）。その一つが陀羅尼などの「秘密語」で、漢訳仏典のみならずチベット語訳やモンゴル語訳でも、陀羅尼やマントラなどの呪句は、それぞれの言語の訛りに変化しつつもサンスクリット語のまま唱えられてきた。その理由は教理上からも修法上からも種々に論ぜられていて、呪の意にふさわしく、論理的解釈をはばむ。そもそも陀羅尼は文法的にも破格なことが多く、陀羅尼も同様である。

アーハ、フリーヒ、パツト、スヴァーアーハー（Om cintāmaṇicakraṇavarti mahāpadme āh hṛīh hūm phat svāhā）

唐の大訳家・玄奘は翻訳せず、原語のまま借用すべき語を五種挙げ、これを五種不翻とした（拙稿「觀音菩薩の宗教」<sup>33</sup>参照）。その一つが陀羅尼などの「秘密語」で、漢訳仏典のみならずチベット語訳やモンゴル語訳でも、陀羅尼やマントラなどの呪句は、それぞれの言語の訛りに変化しつつもサンスクリット語のまま唱えられてきた。その理由は教理上からも修法上からも種々に論ぜられていて、呪の意にふさわしく、論理的解釈をはばむ。そもそも陀羅尼は文法的にも破格なことが多く、陀羅尼も同様である。

アーハ、フリーヒ、パツト、スヴァーアーハー（Om cintāmaṇicakraṇavarti mahāpadme āh hṛīh hūm phat svāhā）

唐の大訳家・玄奘は翻訳せず、原語のまま借用すべき語を五種挙げ、これを五種不翻とした（拙稿「觀音菩薩の宗教」<sup>33</sup>参照）。その一つが陀羅尼などの「秘密語」で、漢訳仏典のみならずチベット語訳やモンゴル語訳でも、陀羅尼やマントラなどの呪句は、それぞれの言語の訛りに変化しつつもサンスクリット語のまま唱えられてきた。その理由は教理上からも修法上からも種々に論ぜられていて、呪の意にふさわしく、論理的解釈をはばむ。そもそも陀羅尼は文法的にも破格なことが多く、陀羅尼も同様である。



花材：芦、カキツバタ

今回の作品は芦と力  
キツバタを使った生花正  
風体です。

『善し（よし）』と呼ばれて  
います。川辺などに群  
生する姿を見ることが  
あると思います。ただ、  
きれいな花を咲かせたり  
するわけではないので観  
賞用として栽培される事  
はほぼありません。その  
為、いけばなの花材とし  
て手に入れるのはなかなか  
難しい花材です。

今回の作品は生花正風  
体の中でも昔の作品の絵  
図を参考にした作品で、  
現在の生け方とは若干異  
なる部分があります。芦  
は葉が多いと鬱蒼とした  
感じになってしまいますが、  
が、適度に葉を省略する  
ことで、水辺の涼しげ  
な、風が吹き抜けるよう  
な感じを表現した作品と  
なりました。

少しずつ暑い日が増え  
てきました。これから更  
に暑くなつてきますが、  
身体に気をつけてお過ご  
しください。

# いけばなの心(40)

華道教授  
佐藤  
宗明

八王子消防各組頭  
高尾講御花講  
小社 周旋方依囁候事  
少僧正佐伯隆範

明治  
茶葉集  
講社文庫  
月十日

栄久御花講は、高尾山春季大祭に八王子消防記念会会員が、八王子市無形民俗文化財に指定されている「木遣(きやり)」（仕事をする時に力を一  
つにまとめるために、掛け声や合図として唄わ  
れた作業唄）を唄いながら花籠(はなづか)を担ぎ、奉納しておられます。

かつて、栄久御花講は四月二十一日の「山開き」に先立ち四月十五日にお花を奉納する唯一の講で、諸説あります。が、古くは江戸時代に吉原の旦那衆と鳶達によつて御本尊様をはじめ、七堂伽藍にお花を奉納しておりました。

最近では、東京都内では初めてとなる日本遺産に認定された、「**靈気満山 高尾山**」の構成文化財の一つとして木遣り務めさせて戴いております。

高尾山の纏を振り、木遣を唄い御花を担ぎ御山を登る姿は見応えがあると思いますので、春季大祭に皆様お越し頂ければ幸いです。

先人が遺した八王子宿の繁栄と安全を願う、歴史ある伝統を、これからも末永く残していきたいと思います。

A photograph showing a group of men in traditional Japanese festival attire, specifically blue tunics with white stripes and white headbands, carrying a large wooden structure. The structure has a yellow sign with black text that reads "栄久お花講" (Eigo Ohanagaku) and "八王子清" (Hachioji Sei). To the right of the sign, there is vertical text in smaller boxes: "三才無形民族文化財" (Intangible Cultural Property of the Three Capitals), "本式" (Traditional Style), and "構成文化財" (Cultural Asset Composition). The background shows a lush green forest.

A group of elderly men in traditional Japanese attire, including black jackets with white stripes and orange sashes, walk in a procession. They are carrying a large black and white banner with the text '八王子祭り' (Yokohama Festival). The scene is set on a city street with modern buildings in the background.

春季大祭にて新たに奉納頂いた  
花籠を担ぎ御山を登る

交通安全祈願碑法要嚴修

四月二十四日(月)

四月二十四日、高尾山麓の清滝駅前において、  
高尾交通安全協会により令和元年五月一日に建立  
されました、「交通安全祈願碑」の交通安全祈願  
法楽が佐藤貫首導師のもと執り行われました。  
祈願碑には先代の大山貫首が揮毫されました、  
**「一心祈願 人車一体 愛情運転」という言葉が刻ま**  
れております。

高尾交通安全協会の小松会長他、多くの会員の  
方々が参列され、高尾山を訪れた多くの方々と共に  
交通事故が無くなるよう一心に祈願されました。

無事故への祈りを一心に祈念する





# 高野山巡拝のお知らせ

高野山巡礼のお知らせ

本年の令和五年は真言宗の宗祖弘法大師御誕生一千二百五十年に正当する節目の年です。高尾山薬王院では、このご勝縁にあたり当山貫首佐藤秀仁大先達の元、二泊三日の行程で世界遺産である高野山の巡拝、弘法大師と諸縁のある寺院を参拝する巡礼を開催致します。

是非この機会に御信徒皆様とお大師様とのご縁を深めて頂き、巡拝にご参加頂けますよう、お知らせ申し上げます。

尚、日程は本年の九月二十七日（二十九日）を予定しておりますが、その他詳細は高尾山報來月号、また、薬王院ホームページにて発表させていただきます。

いろは  
天狗の落し文

やがて切れます  
張り詰めた糸  
人の心も

(29)

# 「第四十一回 高尾山写経大会」 開催のお知らせ

高尾山での写経をご希望の方

在宅写経につきましても、昨年同様に実施致します。参加ご希望の方は、写経作法・心得を記した「写経の手引き」等、写経用紙一式を発送致しますので、ご自宅にて書写後、当山までご送付下さい。

お預かり致しました写経は、写経大会の際に御本尊様御宝前に奉安致します。

来るたる八月六日 恒例の「子供やまぶし修行体験会」を開催致します。

行程や時間等、内容の詳細につきましては現在山内にて協議しておりますので、ご参加をお考え頂いている皆様におかれましては、今しばらくお待ち頂きますようお願い申しあげます。

尚、申込み・行程につきましては、来月号、または薬王院ホームページにてお知らせ致します。

※要事前予約  
二千円

申込　お電話、またはホームページ上よりお申し込み下さい。TEL○四二一六六一・一二一五  
<https://www.takaosan.or.jp/>

※定員（百二十名）になり次第締め切ります。  
写経に必要な諸道具は当山にて御用意致します。

在宅での参加をご希望の方

会費　二千円

※参加費につきましては、送付物一式に払込取扱票を同封致しますので、郵便局にてお支払い願います。

申込　ハガキに郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記の上、左記までお申込み下さい。

〒一九三一・八六八六

八王子市高尾町二一七七　高尾山写経大会係

七月七日（金）必着

申込締切

西国四十九薬師靈場巡礼（2）

厚木市 荒井 一雄

青丹吉 あをに よし

奈良の伽藍 ならの がらん

若葉映ゆ わらはく ゆきゆ

夏、薬師寺に遊ぶ なつ、やくしじにゆふ

写經勸進は宗派を超え、  
全国各地よりの仏教徒は  
境内にごった返す…

東西の塔は金堂を包み、  
境内にごった返す…

百十年振りの  
『國宝東塔落慶法要』に

香道・茶道の  
名人芸が花を添へる…

抄經微集跨宗教  
夏遊薬師寺  
全國信徒大群人  
東塔西塔包正殿  
香道茶道添花晨

## 毎日の お護摩奉修時間

午前9時30分  
" 11時00分

午後0時30分  
〃 2時00分  
〃 3時30分

ご講中・団体等  
御相談下さい。



- 仏舎利詣り(仏舎利塔) 十二日  
お施餓鬼大法要

御詠歌勉強会 十八日  
(十時山麓不動院)

奥の院開扉供養 二十八日  
(十時奥之院)

高尾山どんとんむかし 三十日

尚、法要終了後に百味の  
お札を授与致します。

毎月二十一日午前九時勤修  
御志納金 一〇三三千円以上

聖天秘供(聖天堂)  
十日、二十一日  
弁天様御縁日

七用行事日程

登山だより

## 高尾山の昆虫

164

高尾山報助成金  
御志納の

御志納のお願い

飯縄様御縁日  
神徳報謝百味飲食供  
(九時大本堂)

現様の日々の御加護に感謝し、沢山の御供物を捧げて御本尊様威光倍増の為、御供養申し上げる法要です。

皆様の御志納を受け付けておりますので、ご希望の方は大本堂までお申し出下さい。

尚法要終了後に百味の  
お札を授与致します。

毎月二十一日前九時勤修  
御志納金 一千三千円以上

A decorative block containing a stylized letter 'G' at the top, followed by a small, rounded rectangular frame containing a simple, symmetrical face or figure.

卷之三

トカラミキリはスズメバチやベツコウバチ、アリ等他の昆虫に擬態していることが多くその姿や体色は多様ですが、前胸が目立つ赤色をしていることが本種にとって擬態効果があるのか、或いは単に体色の特徴なのか興味深いところです。

(文松島孝撮影上村雅昭)

数多いトドカラカミキリの中でも首部が魚やかんむりの赤い種は本種とブドウトラカミキリくらいで、見栄えのよさでは群を抜いていると思います。

名前のように首が赤いと言つても、昆虫の部位では前胸と呼ばれる部分で、アカムネトラカミキリの方が和名としては適切かも知れません。

前記のブドウトラカミキリとは、まるで双子のようにそつくりながら、ブドウトラの方がやや細めであり、黒い上翅に入る黄色の横帯がクビアカトラは工の字型、ブドウトラは襷掛けのようなX字になることで区別ができます。

高尾山の自然研究路を歩いていると、道端の伐採木を俊敏に走り回るカミキリが目に付き、クビアカトラカミキリ（頸赤虎天牛）だと気がつきました。

数多いトラカミキリの中でも首部が鮮やかに赤い種は本種とブドウトラカミキリくらいで、見栄えのよさでは群を抜いていると思います。



当山では、大護摩修行等により御縁を結ばれた御信徒様に高尾山報を送つております。



高尾山薬王院ホームページ  
<https://www.takaosan.or.jp>

発行所  
東京都八王子市高尾町2177  
大本山  
高尾山薬王院  
郵便番号 193-8686  
電話(042)-661-1115㈹  
FAX(042)-664-1199  
発行人 犬山秀康  
編集人 菅井倫浩  
印刷 ヒラソカ印刷社  
毎月1回1日発行  
1部50円